

よみさんぼ

大宮見沼



第6号

写真家 野口勝宏

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特集 変化し続けるアートフルゆめまつり

みんながづくり手 みんなが主役

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぼ」編集委員会

# 特集 変化し続けるアートフルゆめまつり

みんな みんな  
がつくり手 が主役

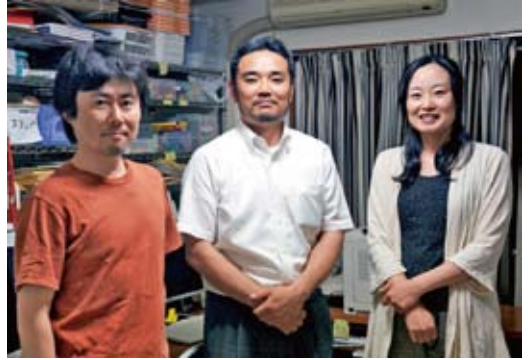


2013(平成25)年4月21日(日),大宮駅東口周辺の13会場でアートフルゆめまつりが開催された。本紙を発行するやどかりの里は大宮区役所前会場にて,やどかりの里のメンバー(障害当事者),職員,家族で構成されたコーラスグループとして参加,計3曲の合唱を披露した。またエンジュ,ルポーズ,まごころはそれぞれ軽食を販売した。あいにくの雨だったが,大宮駅東口界隈が多く市民たちの音楽やアートで賑わい,熱気にあふれていた。やどかりの里の参加者も,多くの市民とともに楽しい1日を過ごすことができた。

## 市民がつくるアートフルゆめまつり

アートフルゆめまつりは「音楽やアートで潤いと豊かな文化あふれるまちづくりを目指し,みんながつくり手,みんなが主役」をコンセプトに,ボランティアな市民による実行委員会形式によって運営されている。11月頃から参加団体の

エントリーが始まり（今年は149団体が参加）各会場の運営方法などはエントリーした参加者たちが実行委員会の中でグループワークをしながら主体的に決めていく。今年は広告収入をもとに11万部のタブロイド版広告を打つなどして、大宮のまちの恒例行事として定着している。こんなお祭りを実際に企画しているのはどんな人たちなのだろうか。



左から三浦さん、出口さん、小林さん

そこで今回は、アートフルゆめまつり実行委員会事務局長出口<sup>あき</sup>朱輝さん、事務局次長三浦<sup>ただし</sup>匡史さん、事務局スタッフ小林あゆみさんにお話を伺った。

## せせらぎコンサートからアートフルゆめまつりへ

まずは3人の出会いとアートフルゆめまつりの成り立ちを聞いた。出口朱輝さんは、音楽を心から愛するサクソフォン奏者で、元おみやや市民吹奏楽団の団長。大宮鐘塚公園で桜木中学校、桜木公民館が協働で毎月のように開催していた「せせらぎコンサート」に市民吹奏楽団として関わっていた。しかし、せせらぎコンサートは多くの観客を集めることができないことが課題だった。そこで100回記念コンサートを境に、さいたま市生涯学習総合センターの協力を得、より多くの市民への広がり求めて市民運営の「せせらぎコンサート市民企画委員会」による新たな形を模索することとなる。そこで音楽を広めたい出口さんと、まちづくりに取り組む加藤久美子さんや久世晴雅さん（よみさんぽ3～4号参照）たちとの出会いがあった。

そして、せせらぎコンサート市民企画委員会は2006（平成18）年、2007（平成19）年にまちづくりと市民のお祭りを考えるための、先進事例などに学ぶワークショップ形式のセミナーを開催した。

三浦さんは当時「都市づくりNPOさいたま」の理事・事務局長であり、2007年のセミナーのファシリテーターとして参加し、出口さんたちの活動に加わっていく。その後、三浦さんは2007年にオープンした市民活動サポートセンター

の副センター長に就任されている。

そうして地域の中で、さまざまな活動をしていた人たちが、引き寄せられるように集まり、「音楽・アートを媒介として」人々の交流、まちの賑わいを目指した「お祭り」の構想が固められていった。2007年に記念すべきアートフルゆめまつり実行委員会が立ち上がり、2008（平成20）年3月に、第1回のアートフルゆめまつりが開催された。

さらに今年から小林さんが事務局スタッフに加わった。小林さんは、2011（平成23）年内閣府地域社会雇用創造事業支援対象事業・コミュニティビジネス起業プランコンペで優秀賞を獲得して起業した元気ママなのである。そのビジネスプランは「子育てしながら自分を育てる」を基本コンセプトにした「ままの＊えん」という会社で、ママのための託児つき講座・仲間作り部活・ママたちによるイベント企画など女性の社会参画、企業マーケティング、プロモーションの提案など幅広い事業を展開している。そんな小林さんは、出口さんたちの姿勢に共感して自ら事務局を引き受けたという。

## 観る人と演じる人を分けないこと

出口さんは言う。「まちにはさまざまなことに熱心に取り組んでいる人がたくさんいる。音楽に取り組んでいる人は情熱を傾け、練習をしてがんばっているが、そうしたことは誰にも知られていない。それはとてももったいない。もっと普通の市民のさまざまな力を引き出し、循環させたい……」「お祭りは観る人と演じる人を分けないことが大事。市民が情熱を持って自ら参加費を払って主体的に、誇らしげに参加し、市民同士の交流が広がる。そこからまち独自の文化が生まれることを期待している」

## イザコザ・<sup>あつれき</sup>軋轢は大事

お話を伺いつつ、市民がみんな仲良くなって、特に大宮という都市部では難しいのではないかと思い、その疑問を投げかけてみた。

「無用のイザコザはいらないが、多少のイザコザや軋轢は必要。いい感じでもめたりとかね。そうした関係性の『面倒くささ』を担保するために、僕は事務局長をやっているんです」と、出口さんはとても楽しそうに、にっこり笑う。

アートフルゆめまつりの実行委員会には、エントリーした参加者たちは必ず参加しなければならない。多い時は200人くらいの老若男女が集まってグループに分かれ、<sup>けんけんがくがく</sup> 喧々譁々運営方法を決めていく。その会場には、いつも必ず出口さんたち事務局の方々の明るい笑顔が待ち受けていて、楽しくやろうよ！なんかやりたい！という熱気を後押ししてくれていた。だからこそ「いい感じでもめながら」準備が進んだのかも知れないと今、思う。

三浦さんは市民活動サポートの立場から、そうした市民の力を引き出し、循環する仕組みをつくるのが大事なのだと何度も言われる。そしてアートフルゆめまつりで出会った市民たちがネットワークを広げ、自主的で独創的なアイデアを提案し、新しいイベントなどがどんどん生まれて来るのを心待ちにしているという。

小林さんは子育て中のママだが、自分を社会に役立てたいと思っている。子育て中のパパママこそ、まちづくりにかかわり、力を発揮して欲しい。そんな思いを込めて事務局に参加しているそうだ。

### 変化し続ける未完のお祭り

出口さんの明るいリーダーシップ、三浦さんの手堅い運営手腕、小林さんのサポーターズですばやい事務処理。三人三様の立ち位置の違いがありながらも、それぞれの個性が微妙なバランスを保ちつつ、揺れながらコラボしている様子が楽しい。皆さん30代～40代の若い、パパ、ママたちで、仕事もあり、子育て中でもあり、決して有り余る時間があるわけではないだろう。しかし、仲間とともに楽しむことを知っているのだ。

大きなイベントと聞けば、運営のたいへんさや「何かあった時」への対応など、思わずしり込みしてしまいがちだが、事務局の皆さんは、それを楽しみに変換する術を知っている。「アートフルゆめまつりはどんどん変化し続ける未完成なもの。いろんな人が参加してどんな風が変わっていくかわからないし、それが楽しみでもある」と、事務局の人たちはほんとうに楽しそうに語る。アートフルゆめまつりは、まだまだ終わらない、変化し続ける未完成で壮大な夢の始まりなのだ。

(記 野田 妙子)

# やどかりの里の仲間たち・5

アートフルゆめまつりで合唱を披露したやどかりの里コーラス隊。今回は、参加した2人の声をお届けします。

## 宇津澤圭子さん (46歳)

私が大宮東部活動支援センターを利用するようになって、3年が経ちました。私は18歳の頃にうつ病を発症し、28年間病気とおつき合いをしてきました。「自分は誰からも必要とされない」……そんな悲観的な思いで過ごし、病院に行くにも買い物するにも、母に頼って暮らしてきました。そんな中発生した3.11は、私の人生の転機になりました。必要に迫られ、1人で買い出しや病院に行くようになっていったのです。東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」をアートフルゆめまつりで合唱すると聞いて、自分自身成長できたらとコーラス活動に参加しました。

アートフルゆめまつりは、まさに“夢”のような時間でした。とにかくみんなで歌うことは楽しかったし、自分自身飛躍できたと思うのです。自分の人生に、これからもたくさんの花を咲かせたいと思っています。

## 中塚 治さん (47歳)

私は2006(平成18)年からやどかりの里を利用しています。現在は障害者生活支援センターに相談に行ったり、憩いの場を訪れたり、最近では働く場で実習も開始しました。

そして4月に行われたアートフルゆめまつりでは、コーラス隊の一員として合唱を披露しました。自分にとって歌うことは、自己表現の1つです。一方で声あまり出ないことが不安でしたが、友人の「『花は咲く』を歌うことで、どんなことを伝えたいかが大切だよ」という言葉に背中を押されました。家族や友人の大切さを伝えられたらいいな……そんな気持ちで歌いました。来年のアートフルゆめまつりには、今回以上に参加メンバー一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

これからは自分の中のテーマ「自立」に向けて、まずはきちんと健康管理をしながら働いていきたいです。

# 参道マップ

～氷川参道をぶらり散策～

旧中山道から武蔵一宮  
氷川神社までをつなぐ  
氷川参道. そこで出会っ  
た大宮の魅力をご紹介  
してきたこのコーナー  
も最終回となります.

氷川参道の入り口に当たる一の鳥居から氷川神社前の三の鳥居までは、約2kmの距離があります。参道としては日本一の長さ！その参道のシンボルは何といっても威風堂々としたケヤキやクスノキ、エノキを中心とした樹木です。木漏れ日の中の参道は涼しくて、とてもすがすがしい。車が行き交う音さえ木々に吸い込まれるようでした。



氷川参道には700本もの樹木が立ち並んでいます。その中でも一際大きく立派な樹木がありました。一体何歳なののでしょうか。この巨樹がまだ人の背丈くらいだった頃、ここにはどんな風景が広がっていたのでしょうか。歴史を感じるひとときでした。氷川参道の樹木の中には幹の周りが2mを超えるものもあり、さいたま市の天然記念物に指定されています。



これは<sup>ちょういし</sup>丁石です。丁石は氷川参道を歩く人たちが道の距離がわかるようにと置かれたものです。1丁は約109mです。一の鳥居近くにある丁石には「是より宮まで十八丁」と刻まれています。

市街地の賑わいと歴史が交錯する大宮区。氷川参道を散策すると、この地域をこよなく愛する人々の息づかいを感じることができます。

時にはゆっくり寄り道しながら、氷川参道の並木道を歩いてみませんか。  
(記 堤 若菜)

## よみさんぽ日誌

# 見沼たんぼ体験農園事業体験記

見沼の自然を満喫！収穫に思いを馳せて…



5月26日(日),平成25年度の見沼たんぼ体験農園事業が始まりました。この事業は、NPO法人見沼ファーム21が、埼玉県の「見沼田圃公有地化推進事業」の委託を受け、1999(平成11)年から始まり、今年で15年目になります。

私がこの事業を知ったのは、昨年。しかしすでに募集は終了しており、参加することができませんでした。「来年こそ!」との思いを实らせ、今年度の事業に申し込み、家族4人で参加できることになりました。見沼たんぼ(加田屋)での米づくり体験を田植えから収穫まで、よみさんぽ日誌でご報告します!

### 5月26日(日) 田植え

集合時間は朝9時でしたが、待ちきれず、8時30分には加田屋たんぼに到着。すでに見沼ファームの人たちが集まって、苗の準備や日よけのテントの設営など準備中でした。9時をめぐって続々と参加者が集まり、加田屋たんぼの一角は、あっという間に、大勢の家族連れでいっぱいになりました。

たんぼの脇に参加者が整列すると、見沼ファームの人が植える場所を割り振ってくれます。列を決めるロープに印が付けてあり、ロープが動くのに合わせて、その印のところに苗を植えれば、きれいに植えられるという仕立て。ビニール袋に入れられた苗を手に、いざたんぼの中へ!

たんぼの中に足を入れると、泥が足の周りに吸い付いて、身動きをとるのも一苦労。見沼ファームの人の掛け声に合わせて、苗を植えます。苗がしっかり



と根を張って、黄金色の稲穂が秋風に吹かれる姿を想像しながら、1苗植えたら1歩下がって、泥を均しながら、また植える……これを繰り返すのです。

端から端まで植え終わると、「あー、終わったー！」と達成感！泥だらけの足や手を田んぼ脇の水路でジャブジャブ。合間の時間に、田んぼで暮らすカエルやカブトエビ、オタマジャクシを愛で……自然を堪能。

最後に、見沼田んぼでとれたお米で作った塩にぎりをいただきました。

「塩にぎりってこんなに美味しかったっけ?!」と思わずにはいられない美味しさ。田植えのあとの、おにぎりの味は忘れられません……

すぐに飽きてしまうかと思っていた子どもたちも、泥遊びや生き物探しに夢中でしたが、田植えにもしっかり取り組みました。

見沼ファームから呼びかけられた「みんなの5・7・5」。田植えの思い出を5・7・5に託し、息子は「田植えはね とってもとっても 楽しいよ」と思いのままを書いていました。普段は、「なんて書くのー」と言っている息子が、自分でスラスラと書いているのを見ながら、貴重な機会を得たことを実感。



水田作業は、今後草とり、生き物調べ、草花調べを継続しながら、9月末に収穫予定です。暑い日差しの下での作業になりそうですが、収穫を楽しみに参加していきたいと思います！次回の報告をお楽しみに…… (記 宗野 文)

# あなたの街のやどかりさん

## 障害のある人の「地域で生きる」を支えるバザー

### 恒例！「やどかりの里大バザー」

「ドドーン！」。太鼓サークル「小槌会」の太鼓で始まる「やどかりの里大バザー」。開場前から列をなしていたお客さんが、お目当ての売り場に向かいます。「いらっしゃいませー」「安いですよー、いかがですか」。高校生や会社員、施設の利用者、職員がボランティアとなって運営に汗します。会場にはテントが張り巡らされ、地元のロータリークラブさんや福祉施設、ボランティア団体などが出店し、新鮮野菜や手づくり商品、さまざまな品が並びます。

### やどかりの里の財政危機に

今から遡ること約40年前の1975（昭和50）年、第1回やどかりの里バザーが南中野自治会館で開催されました。やどかりの里は、1970（昭和45）年、病気がよくなっても地域に帰る場がなく、長期入院を余儀なくされていた人たちに宿舎を提供する活動から始まりました。しかし、当時は精神障害のある人たちへの支援活動には公的な施策がなく、手弁当で運営せざるを得ませんでした。財政確保のための1つの取り組みとして、バザーが始まったのです。

### 「地域で暮らす」「働く」を実現するために

精神障害のある人たちへの福祉が法制化され始めたのが1980年代後半。やどかりの里は、1990（平成2）年に、生活訓練施設（入所期限のある寮）と授産施設（働く場）を併設した社会復帰施設を見沼区中川に建設。精神科病院に長期入院を余儀なくされていた人たちが次々に退院し、地域で暮らし始めました。そして、その人のペースで働けるような働く場やグループホーム、気兼ねなく過ごせるような憩いの場などを点在させ、精神障害のある人たちの地域で

## 第6回

やどかりの里では、精神障害のある人たちの「地域で暮らす」「働く」を支えるために、資金づくりの一環として、また地域の皆さんとの交流を目的に、毎年バザーを開催しています。

の暮らしを支えてきました。公的施策が不十分な中で新たな活動を創り出していくには、資金づくりのためのバザーは欠かせませんでした。

### バザーはまだまだ続きます！

昨年（2012年）6月末に「エンジュ」が竣工。新しく20人を超える仲間が働き始めました。やどかりの里援護寮は今年3月に改修を終え、「サポートステーションやどかり」として、退院した人たちや、自宅にこもりがちな人たちの暮らしを支えています。これら大きな2つの事業のためには、足かけ4年にわたり資金づくりに取り組んできた経緯があります。多くの人たちのご協力があった、障害のある人たちの暮らすこと、働くことが支えられています。

そして、「働きたい」「自立した生活を送りたい」と、やどかりの里を訪れる人は後を絶ちません。新たな活動づくりに向け、今年もバザーの準備を始めています。  
(記 永瀬恵美子)

エンジュ弁当はいかがですか。

昼食1食 550円

\* 月～金の希望の曜日にお届けします。

\* 管理栄養士が献立を立て、栄養バランスのとれた弁当です。

\* おかゆ、刻み食にも対応致します。

お問い合わせ エンジュ

南中野286の1 電話686-7875



新しいエンジュにて、洗い物の量も増えました

## 民族芸能を伝承する

### 和太鼓演奏グループ「<sup>こづちかい</sup>小槌会」

毎年、「やどかりの里大バザー」を彩る和太鼓グループ「小槌会」。与野市手をつなぐ親の会青年学級に参加していた知的障害のある人たちの「もっと太鼓をやりたい」という願いから活動が始まりました。現在、主たるメンバーが8人、ボランティアで特別支援学校の教員や施設職員、民族歌舞団「荒馬座」の準座員等が関わり、運営や技術の向上をサポートしています。6月の某夜、練習場所にお邪魔してきました。

#### 20年、毎週欠かさず

午後7時、仕事を終えたメンバーが集まり、練習の準備に取り掛かります。その中で唯一、体育着姿のメンバーがいました。「うちの子は中2から始めて、今高等部なのよ」と、送迎に来たお母さんが教えてくれました。その体育着姿のタナカくんが、いちばん若い世代です。初期メ

ンバーは40歳代で、活動を始めて20数年、毎週欠かさず練習を行ってきました。

「じゃあ、始めようか」と掛け声をかけるのは、青年学級時代から関わってきた中村光孝さん。自らも荒馬座で学び、技術指導にあたっています。「スットン、スットン、ドードンドン……」、それぞれが打ち鳴らす太鼓の音が身体の奥まで響きます。

#### 太鼓、好き！

一汗かいて休憩中のメンバーにお話を伺いました。マサミさんは、笛も奏でる大ベテラン。さいたま市内の福祉作業所で月～金曜日に働いています。夜間の練習はたいへんかと思いついてみると「うまくなりたいし、嫌になったことはない」そうです。タナカくんの他は皆さん仕事をしていて「忙しい」、だけど「太鼓、



好き」と答えてくれました。語る言葉は少なくとも、太鼓や踊りに向かう姿からも「好き」が伝わります。

### 障害のある人が伝承の担い手になる

この日は、新しい演目である沖縄の伝統芸能「エイサー」の「仲順流ちゅんじゅんながり」という曲目にも取り組んでいました。足をクロスさせながら四方を踏み、その都度手を合わせます。途中から加わったボランティアさんが「それぞれの方向に向かって神様にお礼を言うのよ」。庶民の生活から生まれた民族芸能には、暮らしから

生まれた知恵、自然への畏怖などが込められています。

「障害のある人たちも、新しい演目に挑戦しながら成長していくんです」と中村さんは語ります。「芸能活動を通じて社会参加していくことに留まらず、彼らが伝統芸能の伝承の担い手になれるのでは、とも思っています」。長く続けてきた思いに触れた気がしました。

今年もやどかりの里大バザーで演奏します。お見逃しなく！

(記 永瀬恵美子)

\*「小槌会」 048 (853) 7230 <http://www.kozuchikai.com/>



あなたの街のイベントやお祭りに呼んでください！出張します！

<http://www.yadokarinosato.org/>  
 公益社団法人 やどかりの里（さいたま市見沼区染谷 1177-4 やどかり情報館）  
 Phone. 048-680-1893 Fax. 048-680-1894  
 e-mail: print@yadokarinosato.org

労働保険・社会保険の手続き、ご相談は  
**浅沼社会保険労務士事務所**

社会保険労務士 **浅沼 智**

〒353-0001 志木市上宗岡 4-26-15  
 電話 048-487-6161 FAX 048-487-6168  
 E-mail: skiki-asanuma@sand.ocn.ne.jp

**○ A 機器**  
**事務機器**  
 オフィス用品  
 ソフトウェア のことなら

**主な取扱商品**  
 印刷機・複合機・FAX・事務用品・幼稚園ソフト

地域に根付いて36年  
**教育産業株式会社**  
<http://www.kyouikusanangyo.co.jp>

さいたま市見沼区南中野301-1 TEL: 048-685-0855  
 FAX: 048-685-0726

**新刊案内** やどかり出版 〒337-0026 埼玉県さいたま市見沼区染谷 1177-4 TEL 048-680-1891



**こころの健康社会  
 を目指す**  
 こころの健康政策構想実現会議 編

2013年6月 定価 945円



**生き抜くことは  
 拓くこと**  
 障害と向き合いながらの出会い録  
 勝又 和夫 著

2013年7月 定価 2,100円



事務用封筒・名刺・軽オフ印刷のことなら

あなたの街の印刷屋さん

**やどかり印刷**

Tel 048-680-1893 Fax 048-680-1894  
 さいたま市見沼区染谷 1177-4

秋の恒例 やどかりの里

# 大バザー

雨天決行  
します

## 10月13日(日)

開店 午前 **10:00** 中川自治会ふれあい広場  
(閉店 15:00)

さいたま市見沼区中川 703

### バザー物品大募集!

- 大人服、子ども服、ベビー用品、おもちゃ(新品・美品)
- 生活小物、食器、雑貨(新品、美品)
- 台所用品、タオル、洗剤、石鹸、毛布、シーツなど(新品)
- 食品(缶詰・調味料・油等、賞味期限前の未開封で常温保管できるもの)

\*家電・家具などの大型家財はお受けできません。

<募集期間> 9月2日(月)～9月30日(月)

<集荷場所> サポートステーションやどかり

〒337-0043 さいたま市見沼区中川 562

電話 048-686-0494 FAX 048-747-7030

(月～金 10:00～17:00)

(品物はご持参いただくか、送り主負担の宅急便でお送りください)



### ボランティアさん大募集!

- バザー当日の運営に関わるボランティアを募集しています。
- 時間は9:00～16:00くらいで、衣類や雑貨などの売り場の他、模擬店やイベント、会場設営や警備などに協力ください。

<ボランティアのお問い合わせ・申込先>

やどかり情報館 (月～土 9:00-18:00)

電話 048-680-1891～3 FAX 048-680-1894

<ボランティア受付期間>

10月1日(火)までにお申し込みください。

(申し込みの際、氏名・住所・電話番号をお伺いします)

### 駐車場はありません

会場周辺は道幅が狭いため、路上への駐車は交通違反となります。

有料パーキング等も周辺にありませんので、自家用車でのご来場をお控えくださいますようお願い申し上げます。

<会場までのバスの案内>

JR 大宮駅東口 国際興行バス6番乗り場「中川循環」乗車「中川天神」下車 徒歩3分

\*バザーの収益金は、障害のある人たちの新たな就労の場の開拓を進める活動資金に充てさせていただきます。



主催：公益社団法人やどかりの里 電話 048-686-0494 (代表) Fax.048-747-7030

# 大宮見沼 よみさんぽ

## 作者紹介

写真家 野口勝宏さん

東日本大震災後「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と、フェイスブックで毎日連載している。7月には「ここは花の島」(帯文/谷川俊太郎)IBCパブリッシングから作品集が出版された。http://noguchi.jpn.com/でも作品の閲覧可能。

表紙：大賀ハス……昭和26年、千葉県落合遺跡の地下6mの地層から3粒のハスの実が発見されました。発見した植物学者の大賀博士が翌年1粒だけ開花に成功したのが、この「大賀ハス」です。弥生時代から2000年もの間、泥炭層の暗い土の中で誰かに見出されるのを待ち続けたハスの実。撮影した大賀ハスは直径30センチもの大輪で、内側から神々しく柔らかい光を放っているかのようです。背後から弥生人の感嘆の吐息も聞こえてきます。

題字 宗野文さん(1975年生まれ)

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第6号

発行 2013年7月(夏号)

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会  
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷  
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

http://www.yadokarinosato.org/

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

定価 100円

## 求めています

### \* 300坪～600坪の農地

やどかりの里では、障害のある人たちとともに担う農業を考えています。見沼区染谷地域を中心に、土地を所有している方で「高齢で農業が難しい」「遊ばせている土地を貸したい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

### やどかり情報館

TEL 048-680-1893 (担当 宗野政美)

### \* 100坪～の事務所付倉庫

大宮区天沼にある作業所「あゆみ舎」では、企業からの下請け作業やメール便配達を行っています。業務の拡大に伴い、大宮区、見沼区周辺への移転を検討中です。移転先の物件を探しておりますので、情報をおもちの方はあゆみ舎までご連絡ください。

### あゆみ舎

TEL 048-648-2555 (担当 堤若菜)